

～跡見女子大「観光経営人材育成講座」特別座談会～

# 今こそ！約16億人「ムスリム観光」対策

跡見学園女子大学 東京都文京区 等原清志学長は、昨年11月11日から今年3月8日まで、東京都から受託した観光産業の経営人材育成と基礎的知識の習得を行う「観光経営人材育成講座」を受講した受講者らと、観光産業に携わる人、講座では、インバウンドのセカンドステージでの観光人材育成の重要性などを共有した。今回は、国が新たな観光立国を見据える中、忘れてはならない「インバウンド再開」をテーマに、同講座でも議論された巨大マーケットとして対応が急務な「ムスリム観光」の在り方を、産学官のキーマンが集まっていただき、語り合ってきた。開会式は本紙・長木利通。(跡見学園女子大学)

**跡見学 跡見学** ムスリム人口は、15.7億人と世界の4分の1を占める。コロナ収束後の未来を見据え、観光政策の大きなテーマであるインバウンドの対応は欠かせない。インバウンド観光の現状について、どう捉えているか。それと、その立ち上がりについて、どう捉えているか。加瀬 観光と物流がどう関係するかが、私は国際線の航空輸送を中心に担っている。今のコロナ禍においては、輸送業務に携わり、特に航空輸送を中心に担っている。今、コロナ禍においては、輸送業務に携わり、特に航空輸送を中心に担っている。今、コロナ禍においては、輸送業務に携わり、特に航空輸送を中心に担っている。

**加瀬** 観光と物流がどう関係するかが、私は国際線の航空輸送を中心に担っている。今のコロナ禍においては、輸送業務に携わり、特に航空輸送を中心に担っている。今、コロナ禍においては、輸送業務に携わり、特に航空輸送を中心に担っている。

**菅原** 東京都では、学等と連携した観光経営人材育成事業というプロジェクトに取り組み、その中で2021年度、跡見学園女子大学(跡見女子大)のプロジェクトが採択された。3年計画で進んでいる。観光関連事業者で構成される受講者が約200人集い、オンラインで観光経営人材育成講座を受講している。跡見女子大での大テーマの一つは、インバウンドのセカンドステージにおけるハラル対応にある。従来、インバウンドは、中国や韓国を中心に、東南アジアや南アジア、欧米への拡大が不十分で問題されてきた。コロナ後に訪れるインバウンドのセカンドステージでは、ムスリム、そして彼らが持つ食習慣のハラルを、日本の観光業が受け止める。ハラル対応の問題は、2014年の段階で一時ブームとなり話題となったが、以後は対応への難しさや、中国、韓国からのインバウンドが増加したことで対応が進まなかった。今は、コロナで多くの観光事業者がダメージを受けているが、今だからこそ大きな視点の中で問題を捉え直す。ハラル対応も、プロジェクトでも大きなテーマとして取り上げている。

**菅原** この問題は、観光庁の事業とも密接する。軽部 インバウンドの数を増やすことを目的にプロモーションや受け入れ環境整備を進め、19年には3,100万人まで伸び、4千人が視察に入ったことがあった。一方、消費額や地方への分散、誘客についてはもう一歩であり、これらをどう伸ばすかが課題。ムスリム対応も、対策の重要な一つである。今は、まさにインバウンドが蒸発し、マイナスイメージが広がり、今だからこそ苦手を意識し、未来を見据えた対応が必要であり、そのために

**何ができるか検討している。** 船橋大学の阿良田麻里子教授の話で印象に残ったことがある。ハラルの解釈は非常に多様性があり、食品の場合は最終的に食べるか食べないかは本人次第であるという。目の前の物が100%ハラルであるかどうかは分からない。決めるのは神様だという話もあった。ハラル物流を振り回す、海上または航空コンテナに食品を中心として輸送業務に携わり、特に航空輸送を中心に担っている。今、コロナ禍においては、輸送業務に携わり、特に航空輸送を中心に担っている。

**加瀬** 観光と物流がどう関係するかが、私は国際線の航空輸送を中心に担っている。今のコロナ禍においては、輸送業務に携わり、特に航空輸送を中心に担っている。今、コロナ禍においては、輸送業務に携わり、特に航空輸送を中心に担っている。

**菅原** 東京都では、学等と連携した観光経営人材育成事業というプロジェクトに取り組み、その中で2021年度、跡見学園女子大学(跡見女子大)のプロジェクトが採択された。3年計画で進んでいる。観光関連事業者で構成される受講者が約200人集い、オンラインで観光経営人材育成講座を受講している。跡見女子大での大テーマの一つは、インバウンドのセカンドステージにおけるハラル対応にある。従来、インバウンドは、中国や韓国を中心に、東南アジアや南アジア、欧米への拡大が不十分で問題されてきた。コロナ後に訪れるインバウンドのセカンドステージでは、ムスリム、そして彼らが持つ食習慣のハラルを、日本の観光業が受け止める。ハラル対応の問題は、2014年の段階で一時ブームとなり話題となったが、以後は対応への難しさや、中国、韓国からのインバウンドが増加したことで対応が進まなかった。今は、コロナで多くの観光事業者がダメージを受けているが、今だからこそ大きな視点の中で問題を捉え直す。ハラル対応も、プロジェクトでも大きなテーマとして取り上げている。

**加瀬** 観光と物流がどう関係するかが、私は国際線の航空輸送を中心に担っている。今のコロナ禍においては、輸送業務に携わり、特に航空輸送を中心に担っている。今、コロナ禍においては、輸送業務に携わり、特に航空輸送を中心に担っている。



**跡見学園女子大学 学長 笠原清志氏**  
座談会は感染症対策としてマスクを着用して実施

ムスリムとの接点だ。私は中国の北京日本学術研究センターの主任教授として約7年関わったが、中国では新疆ウイグルの人たちはムスリムであり、中国では何百年、何千年の歴史の中で、互いが共存しながら生きてきた。北京や上海などの大都市でも、移住を受け入れた人々もいる。移住を受け入れた人々もいる。移住を受け入れた人々もいる。移住を受け入れた人々もいる。

## 中東初JNTOドバイ事務所から発信 軽部氏 インバウンドベースに接点、基準づくり 笠原氏 トライウオール資材でコスト、時間短縮 加瀬氏

**中東初JNTOドバイ事務所から発信 軽部氏**  
イスラム圏の観光客の増加は、日本にとって大きなチャンスである。しかし、イスラム教徒の食習慣や宗教的禁忌を考慮した対応が必要である。JNTOドバイ事務所からの発信により、中東市場での観光促進が期待される。

**インバウンドベースに接点、基準づくり 笠原氏**  
ハラル対応の基準づくりは、観光業にとって重要な課題である。食料や飲料の安全性を確保し、観光客の安心を確保することが求められる。

**トライウオール資材でコスト、時間短縮 加瀬氏**  
航空輸送のコスト削減と時間の短縮は、観光業にとって重要な課題である。トライウオール資材の活用により、コスト削減と時間の短縮が可能になる。

**観光庁 参事官(外客受入担当) 軽部 努氏**  
観光庁の参事官として、観光業の振興と観光客の受け入れに尽力している。



**ファシリテーターを務めた、跡見学園女子大学 観光 ミュージアム学部長 後原清志氏**  
ムスリム観光の促進には、観光業と観光客の相互理解が不可欠である。観光業は、観光客のニーズに応じたサービスを提供し、観光客は、観光地を大切にし、文化を尊重する必要がある。

**経済性とムスリム対応のジレンマ**  
観光業は、経済性を追求する一方で、観光客の安全と安心を確保する必要がある。ムスリム対応には、コストがかかるが、長期的に見れば、観光客の増加による利益の増加が期待される。

**ハラル対応の課題**  
ハラル対応には、食料や飲料の安全性を確保し、観光客の安心を確保することが求められる。また、観光客のニーズに応じたサービスを提供することも重要である。

**観光業の振興**  
観光業の振興には、観光客の増加と観光収入の増加が不可欠である。観光業は、観光客のニーズに応じたサービスを提供し、観光客を魅了し、観光地を大切にし、文化を尊重する必要がある。

**日本通運 常務理事 航空貨物担当 加瀬 洋平氏**  
日本通運の常務理事として、航空貨物の輸送に専ら取り組んでいる。

### ムスリム旅行者の受入について

**ムスリム人口と対人口比**

インドネシア	2億 287万人 (88.2%)
マレーシア	1,658万人 (60.4%)

現状の課題

- ムスリム旅行者の増加による情報の入手が困難
- 受入関係者(宿泊・旅行業者・地方自治体等)の不足
- ムスリム旅行者受入に関する知識が不足

これまでの取組

- 食料や礼拝環境等の情報提供
- ムスリム旅行者に配慮したレストラン、礼拝場などを紹介
- JNTOホームページ等を通じて情報発信
- 優良メディアやムスリムに人気のインフルエンサー等を活用

ムスリム旅行者の受入環境を整備し、地域における受入環境整備の取り組みを支援